海外だより

The 40th European Muscle Conference（EMC2011）への参加と発表

宮崎大学教育文化学部　松　永　　智

私は，20011年９月11日から５間の日程で，ドイツ・ベルリンにて開催された「The 40th European Muscle Conference」に参加・発表を行ってきました。その状況を海外だよりとして紹介したいと思います。

European Muscle Conference（EMC）は，1971年に設立されたEuropean Society for Muscle Research（ESMR）が主催する学会で，ヨーロッパ内外の研究者による骨格筋，心筋，平滑筋の生物学および細胞運動性（cell motility）を研究のターゲットにして開催されています。この学会は，第１回の1972年リエージュ（ベルギー）を皮切りにヨーロッパ各地で開催され，今回のベルリン大会が40回目の節目の大会となっていました。本大会の規模は300人程度で，海外に研究拠点（海外の大学等に所属）を持っている方も何人も参加されており，日本人の参加者はおよそ５％程度でしょうか？ 私も共同研究者の広島大学・和田正信先生および大学院生２名と札幌医科大学・山田崇史先生との５名での参加となりました。

私がEMCに参加するきっかけとしては，ヨーロッパ在住の友人に「筋に特化した学会」であることを知らされ，参加を促されたことなどからです。前回初めて参加したのですが，イタリア・パドヴァで昨年の学会は，噂通りの「筋」に関する専門的なものであり，非常に勉強になりましたし，多大なる感銘を受けました。その際のプレシンポジウムの内容は７本の論文にまとめられています［J. Physiol., Vol: 589, 2117-2179, 2011］。

今大会は，ベルリンの郊外Buchという町のConference Center of the Max-Delbrueck-Center for Molecular Medicine（MDC.C）で開催されました。特筆すべきは，あまりにも郊外なもので，ベルリン中心部の４つのホテルから直行バス（所要時間は約１時間，１日１往復のみ）が運行されていたこと（一度歩いてみましたらBuch駅から会場までは30分ほどの距離でした），また近くに飲食店がないため昼食は学会が立食形式（無料）で用意してくれたことでした。昨年度と同様に，本大会でも口頭発表のセクション間は30分ほどのCoffee breakがあり，ケーキと飲み物類を無料で提供され，その折に随所でロビーセッションが行われていました。もちろんそのロビーには，本屋と実験機材を扱う業者が５店舗ほど出店されていました。

今回は，40回記念大会ということもあり，オープニングは学会開設から今までの経緯が語られました。学会タイトルの「European Muscle Conference（EMC）」は，当初は「European Muscle Club（EMC）」の名で，「筋肉」の色々な意味での専門家の集まりだったそうで，「ボディービルディング」の発表会もプログラム内にあったとか…，ヨーロッパでの開催ということもあり，当初の発表は「英語禁止」でフランス語，ドイツ語等の発表のみであったとか…，非常に興味深い内容でした。

学会の内容としては，①収縮性アクチン-ミオシンの相互作用，②サルコメアの動態，③平滑筋傷害，④肥大と萎縮，⑤ミオシン：調節と機能，⑥筋メカニズムとエネルギー論，⑦筋の発達と再生，⑧興奮収縮連関とイオンチャネル，⑨興奮収縮連関と筋障害，⑩無脊椎動物の筋，⑪心機能の調節，⑫平滑筋機能の調節，からなる口頭発表とポスター発表で構成されていました。口頭発表はセッションにより討議込みで15分と20分に分けられていましたが，多くの場合，時間オーバーで緩やかな時間配分とオープンな討議が行われていました。中でも筋生理の第一人者の帝京大学・杉晴夫先生も登壇され，筋収縮中の筋原線維の動きを電子顕微鏡にて観察される手法とその成果を発表されておられました。ご年齢を感じさせず矍鑠としたその姿に，今後の私たち研究者が進むべき姿を映し出しておられる感を強く持ちました。

ポスター発表は，２日目と３日目の両日の掲示とそれぞれ90分間の討議という形式でした。私はポスター発表を選択しましたので，コーヒーを片手にのんびりとした討議を堪能いたしました。

学会の発表概要は，［Journal of Muscle Research

and Cell Motility Volume 32 / 2011 online fast］に次のタイトルで掲載されていることを紹介いたします。

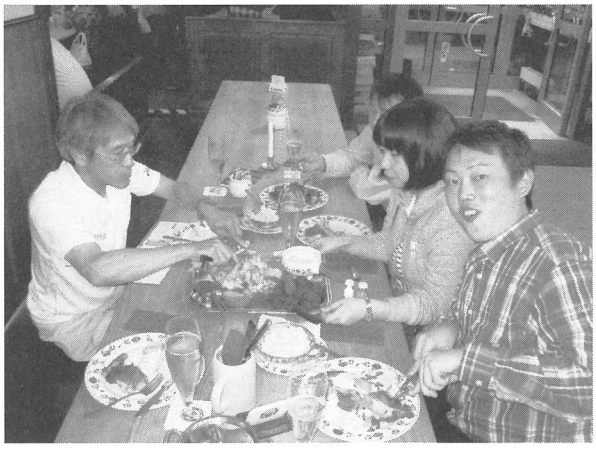
「Abstracts presented at the 40th European Muscle Conference of the European Society for Muscle Research Berlin, Germany, September 14-18th, 2011」

学会といえども海外での開催ですので，観光と珍しい食事は私の中では外せない事項です。最後に学会の合間に立ち寄った観光での写真を載せて学会紹介を終わります。

学会会場入口
（左から山田先生，筆者，院生の倉谷さん，和田先生）

学会会場のテラス（昼食時の１コマ）

ベルリン市街（現存するベルリンの壁の一部）



ビアホールでの夕食
（右手前から神崎君，倉谷さん，筆者，左：和田先生）

大学めぐり

公立大学法人名桜大学

名桜大学　柳　　敏晴

名桜大学は，沖縄県北部名護市に，1994年（平成６年）４月沖縄県並びに名護市を中心とする北部12市町村によって設立された，沖縄県唯一の公設民営の私立大学として，国際学部（国際文化学科，経営情報学科，観光産業学科）の一学部３学科で誕生した。現在は，二研究科（国際文化研究科，看護学研究科），国際学群国際学類（６専攻：国際文化，語学教育，経営，情報システムズ，診療情報管理，観光産業），人間健康学部（スポーツ健康学科，看護学科）の組織である。学生数は，大学院21人，学部国際学類1,020人，人間健康学部スポーツ健康学科453人，看護学科358人，小計811人，合計1,867人の小さな大学である。

2004年（平成16年）の地方独立行政法人法改訂により，公設民営であったので，2010年公立大学法人化することができた。専任教職員数は，教員91人，職員45人で，その他非常勤講師，派遣職員等により構成されている。

大学の基本理念は，「平和・自由・進歩」で，平和を愛し，自由を尊重し，人類の進歩と福祉に貢献する，国際的教養人と専門家の育成を建学の精神にしている。大学の使命・目的は，国際社会で活躍できる人材育成である。

第二次世界大戦最後の激戦地であった沖縄県で，熾烈な地上戦が展開され，祖先が築き上げた文化遺産の殆どが破壊され，20万人余の尊い命が失われた。沖縄県民の平和に対する願望は，強烈なものがある。名桜大学は，このような歴史的背景を踏まえ，世界平和の維持と構築に貢献することにより，平和発信の使命を果たすべく創設された。平和なくして自由はありえないし，平和と自由なくしては人類社会の進歩はありえず，文化の創造はありえない。この平和・自由・進歩の三本柱の下に，名桜大学は国際社会で活躍できる人材育成を教育目標に掲げた。そのためには，心を解放し，自由な発想で，国際的視点から問題を捉え，解決できる人材育成を教育の基本理念とした。

キャンパスは，学園都市構想の一部で土地を名護市より提供いただき，名護湾を見下ろす高台の景勝の地にある。講義棟，研究棟，図書館棟，福利厚生棟，体育館・課外活動施設，本部棟，第二課外活動施設，学生センター，屋内プール，実験実習棟，第三課外活動施設を自己所有し，留学生センター，多目的ホール，総合研究所，北部生涯学習推進センター，北部地域看護系医療人材育成支援施設の五施設を，名護市指定管理施設として活用している。那覇空港から沖縄自動車道を利用し，約１時間30分の距離にある。

人間健康学部は，健康支援人材育成を目指し，2005年（平成17年）にスポーツ健康学科から設置された。人間健康学部は，「人間の生き方」「人間が心身を充実させてよりよく生きる」を基本理念とし，「スポーツ」「健康」「看護」を通して，科学的に探求・究明し「健康支援人材」及び「看護職」を養成する。2008年には，スポーツ健康学科の１期生が卒業する前に，自分達で学生憲章を創ろうと立ち上がり，次の文言ができた。

1. 私たちは、よりよく生きるために、常に平和と自由を愛し、日々、自分自身と向き合い、向上心を持ち、絶えざる進歩を指向します。
2. 私たちは、仲間とともに協力して学び、お互いの信頼関係を築き、思いやりのある心豊かな人間性を培います。
3. 私たちは、幅広い教養や協調性、自立性、参画力を身につけ、人々に支援することができる健康支援人材を目指します。
4. 私たちは、スポーツやボランティア活動を通して、自らの心と体を健全に保ち、専門的な知識や能力をもち、人々を指導・支援する人材を目指します。
5. 私たちは、健康、スポーツ、看護、栄養を通して、地域との交流を深め、長寿県を目指す沖縄に貢献する人材を目指します。
6. 私たちは、ウエルネスの理論のもと、ホリスティックに人々の健康を考え、グローバルな活動を展開する人材を目指します。
7. 私たちは、自然を愛し、命を尊び、平和で豊かな社会を、次世代の子供たちに引き継ぐ責任を持ちます。

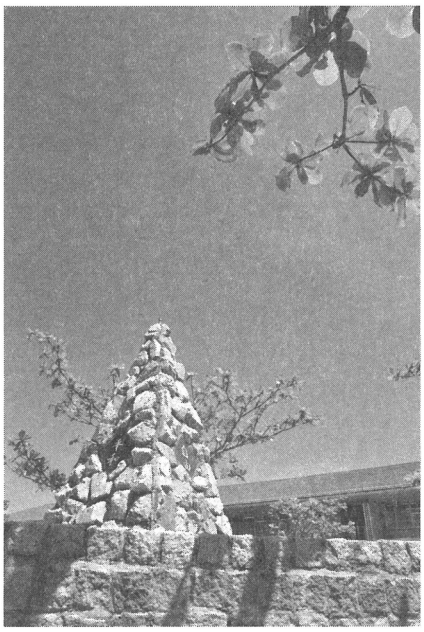
名桜大学人間健康学部学生憲章（平成20年12月６日）

スポーツ健康学科は，心と体を一体として捉え，人間の健康を理解した健康支援を担う人材を育成することを目的としている。教育の特色は，生涯にわたってスポーツを健康増進や生活習慣病予防に応用できる知識と技能を備えた人材育成，そのための，多様で充実した実践・実習・演習科目で，保健体育免許取得のための教育実習，養護教諭免許取得の看護臨床実習及び養護実習，健康運動指導士資格取得のための健康増進施設における実習，企業・社会福祉施設・地方公共団体・野外教育施設等におけるインターンシップなどが

ある。人体の構造と生理的特性，社会における体育・スポーツの位置づけ，ウエルネス・ヘルスプロモーション・保健・栄養などから捉える健康教育等々の，幅広い観点からスポーツと健康を探求する。特色ある実技科目として，海洋スポーツ実技（ウィンドサーフィン，スクーバダイビング等），沖縄ならではの伝統種目（空手・古武道，琉球舞踊など），県外で行うウィンタースポーツ（スキー・スノーボード），その他トレーニングルーム，室内温水プールで行う各種実技科目を提供している。

取得学位は，学士（スポーツ健康学：保健衛生学分野）で，取得できる免許は，中・高等学校教諭一種免許状（保健体育），養護教諭一種免許状，第一種衛生管理者免許で，取得できる資格は，健康運動士受験資格，トレーニング指導者（JATI）受験資格，日本体育協会公認スポーツプログラマー（共通科目免除，ジュニアスポーツ指導員，スポーツプログラマー），社会福祉主事任用資格等である。

目指す進路は，中・高等学校教諭（保健体育），養護教諭，公務員，一般企業での衛生管理職，スポーツクラブやトレーニング施設，大学院進学，青年海外協力隊等である。ディプロマポリシーは，１人間を全人的に理解することができる，２学際的な視点から健康を支援することができる，３自主的により良く生きることができる，４健康の自己管理ができるで，そのためにスポーツ健康学総論をはじめとする専門基礎教育科目と専門教育科目，教養教育科目，自由選択科目がある。

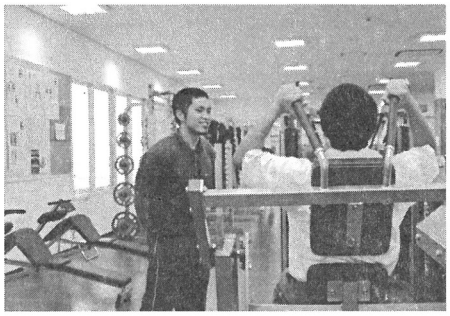


建学の精神

沖縄から，世界の健康支援を担う人材を輩出すべく，教職員一同力を合わせ，日々教育・研究・社会貢献に励んでいる。

室内プールで水泳の授業

新入学生歓迎研修会での登山



トレーニングルームで

ウィンドサーフィンの授業